

「生乳の需給等に係る情報交換会議」での説明概況 (生乳需給調整の考え方と課題)

生乳の用途別取引と需給調整の考え方

- 乳価の安定と牛乳の安定供給のためには、用途別取引を前提に牛乳需要に合わせて生乳を乳製品に仕向ける（需給調整）とともに、不測の変動分にも対応できる乳製品生産能力の確保・維持が重要。
- 牛乳の市場環境は、これまで、この需給調整の枠組みが支えてきた。

・牛乳は、保存性が低く、様々な要因で供給過剰と価格暴落が起こりやすい。

例えば、冬だけでなく、冷夏でも需給が緩和。災害による供給網の乱れでも余剰が発生。また、今後の人口減の影響も懸念。
更に、酪農生産体制構築に3～5年以上必要。

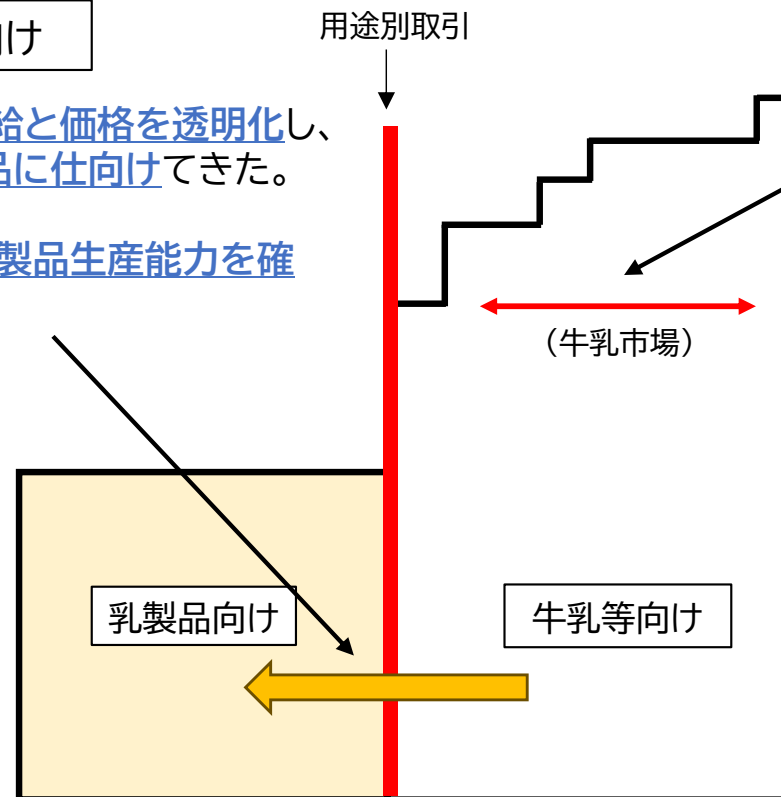
・昭和40年代以降、生産者向けの乳価を安定させ、消費者に牛乳を安定供給する枠組みが徐々に確立。

①牛乳の需給調整としての乳製品仕向け

- ・これまで、①用途別取引により牛乳の需給と価格を透明化し、②その牛乳需給に合わせて生乳を乳製品に仕向けてきた。
- ・今後も、不測の変動分にも対応できる乳製品生産能力を確保・維持することが重要。

②牛乳の市場環境

・これまで、牛乳という商品の市場環境は、牛乳及び酪農の性質を踏まえた、供給過剰と価格暴落を防ぐための左記の枠組みが支えてきた。

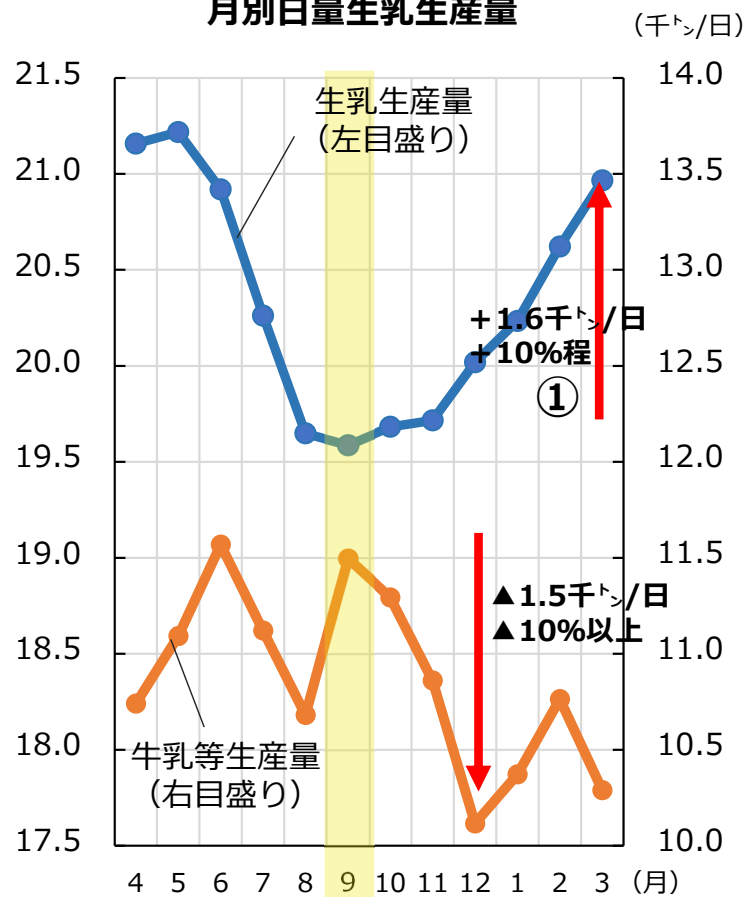


生乳需給調整の基本的な考え方と課題

- 生乳、特に飲用仕向けは需給変動に弱く価格が暴落しやすい。飲用の需要変動分(下図①、②)は主に北海道の指定団体を介して脱バに仕向けており、これによって飲用仕向け価格の暴落を防いでいる。
- 他方、ここ数年は、脱脂粉乳需要のみが低迷(下図③)。対策により(値下げ財源を確保し)、輸入品との置き換え等により需給調整機能を維持している。

季節

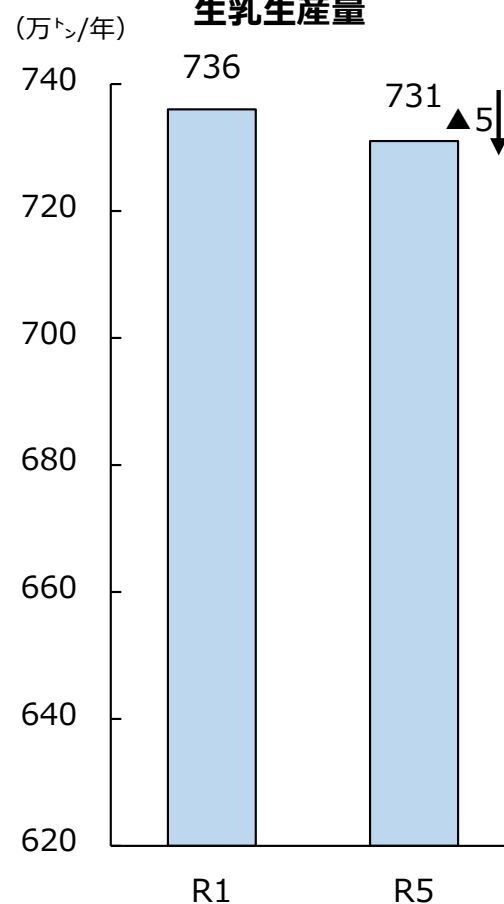
月別日量生乳生産量



⇒ 需要期に供給するためには、不需要期を中心に脱バ生産が不可欠(①)。

消費構造

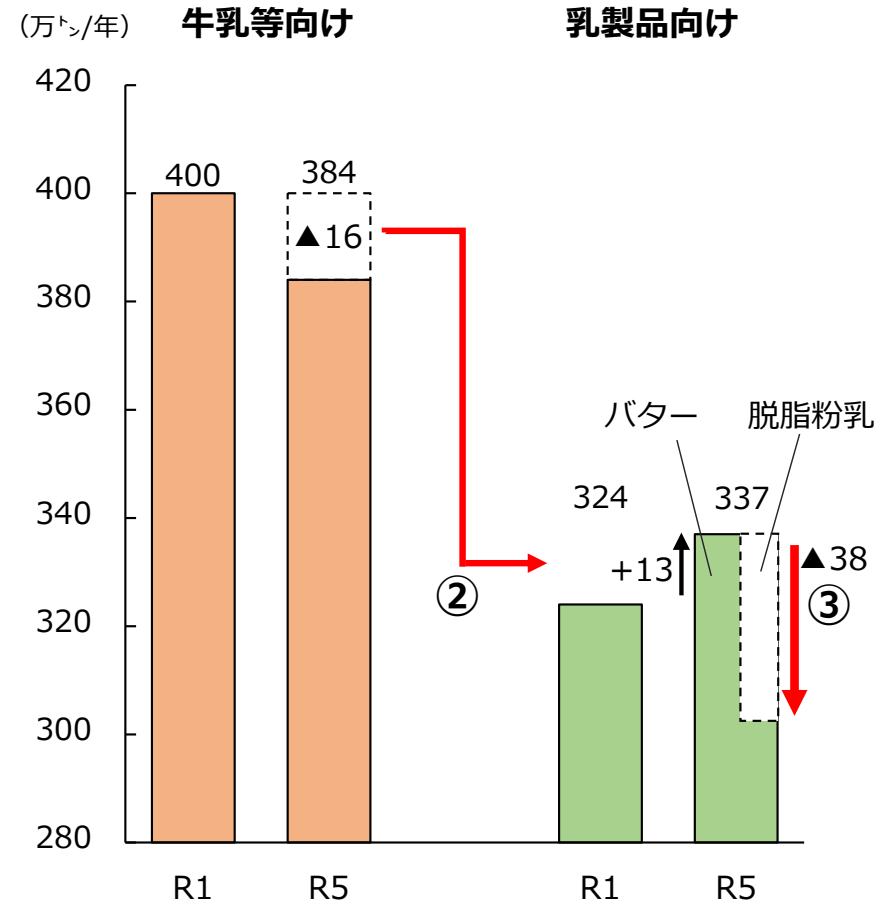
生乳生産量



⇒ 牛乳等の需要変動分は脱バで吸収(②)。

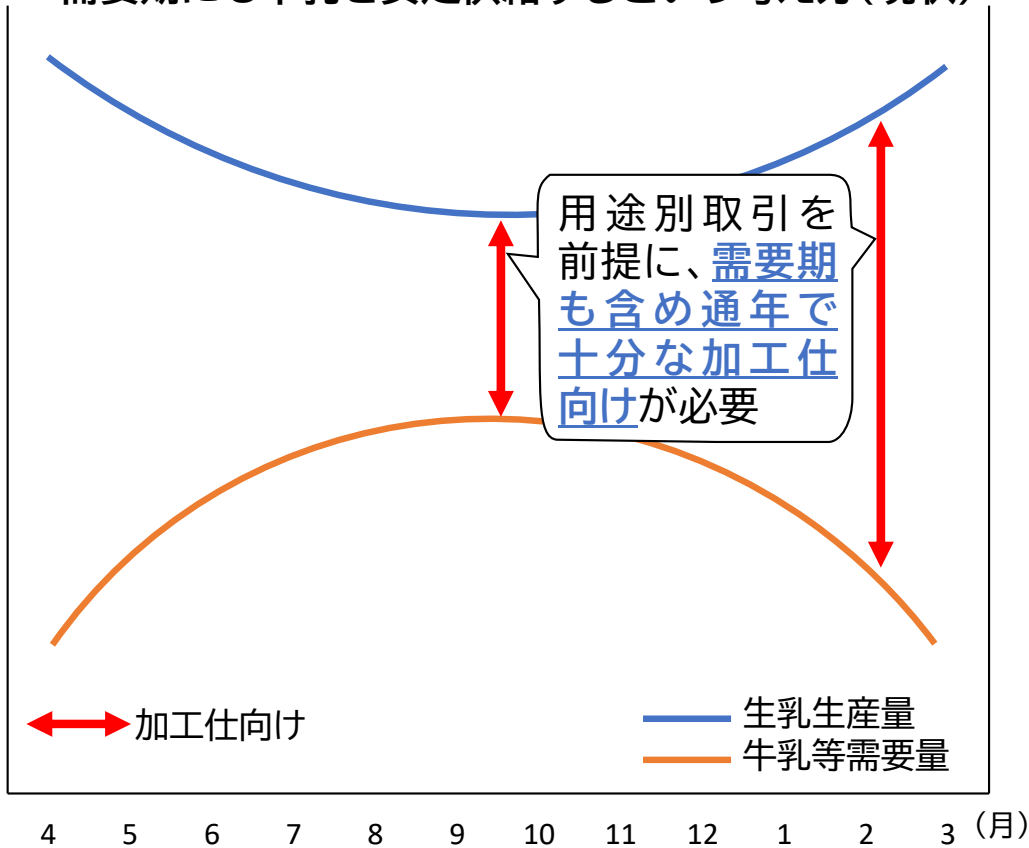
⇒ ここ数年、脱脂粉乳の需要のみが低迷しているとの課題(③)。生乳の価格の安定及び牛乳の安定供給には、この課題への対応が不可欠。

牛乳等向け



生乳生産量と需給調整の関係

需要期にも牛乳を安定供給するという考え方(現状)

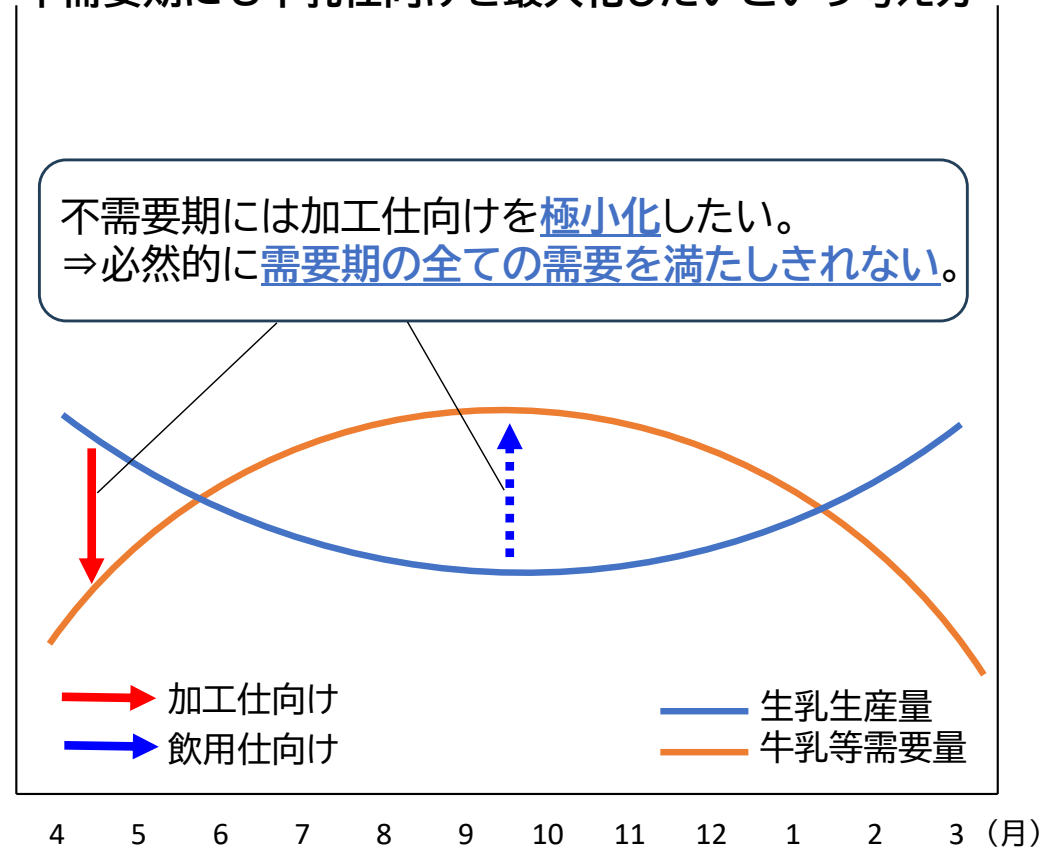


【課題】

(1) 乳製品工場の通年操業の確保

(2) 牛乳の需要減少や、脱脂粉乳とバターの需要の跛行等生乳需給の構造問題(需給調整コスト)の一部事業者へのしわ寄せ

不需要期にも牛乳仕向けを最大化したいという考え方



【課題】

(1) 需要に合わせた生産、つまり、生産カーブ(下に凸)の形状を需要カーブ(上に凸)に合わせること
⇒牛の生体を鑑みると困難

(2) 需要に合わせた供給、つまり、需要期に不足する分の、他の地域や事業者による供給、又は、成分無調整牛乳に代わる乳飲料等による供給
⇒後者については、成分無調整牛乳市場の縮小は国産生乳の優位性や高い生産者乳価を毀損する可能性

飲用牛乳の消費動向

飲用牛乳の消費量の推移

【牛乳の販売本数(週別)】

* 調査対象商品の容量は900～1,000ml

